

学生アンケートからの一考察
— 「教科教育法 国語」における模擬授業 —
A Study of Student Surveys
— Trial lessons in “Methods in Japanese Teaching” —

森 成 美

要 旨

「教科教育法 国語」の授業をどのように展開することが、学生が実践の場に立ったとき有効に働くかを、学生アンケートをもとに考察したのが、本稿である。授業を受けることが本務であった学生が、授業をするという立場に変わるためには、何が必要かを、学生自身が意識する必要がある。そのために、国語科の模擬授業を全員が最低3回はこなし、小学生に向けた問答ができるようにすることを学生に課した。アンケートをもとに、学生が意識したものを記し、来年度のシラバスに活かすことを本稿の目的とする。

キーワード：模擬授業, 「指導言」, 身につけたこと, 身につけなければならないこと

1 はじめに

～全員に模擬授業を体験させる～

小学校教諭として長年授業をし、管理職として教育実習生を受け入れる立場にいた者として、次の3点が気になっている。

- ・ 大学で、小学生への教科指導を意識してどの程度指導法を身に付けているのか。指導の言葉「～しなさい」「～しましょう」等を遣うことができない。授業中に「～して」と児童に依頼し、教えるという意識を持った言葉が遣えない学生がある。
- ・ 声が小さく、体育館や屋外での挨拶が聞こえない。集団の前で話すという意識が薄い。
- ・ 問答で授業を進めながら、知識を習得させる、小学校授業の基盤が理解できていない。発問作りの意識が薄い。(児童に提示する学習課題とは違う。)

また、「文部科学省の学校基本調査 平成28年度（2016年12月22日公表）の「都道府県別学級数別学校数」¹⁾によると、全国の小学校では、児童数の減少により各学年単学級が増加傾向にある。

新任といえども、いきなり単学級の学級担任としてのスタートを予想しなければならない。日常的に学年で教わる先輩教師がいないので、一人で学級経営をし、授業をし、学級事務・校務もこなさなければならないということが起こる。小学校教員養成課程を持つ大学は、より実践的な力量育成が求められ、育成が大学の評価ともなると考えられる。

中央教育審議会答申（平成24年8月28日）「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」²⁾では、次のように述べている。

これからの教員養成は、学習科学、教科内容構成の研究推進及びその成果の活用、経験知・暗黙知の一般化による理論や方法の開発など、学校現場での実践につながる教育学研究の成果に基づき行う必要がある。（下線は引用者による。）

また、同じ答申³⁾の中で、次のようにも述べている。

③教職課程の質の保証

○近年の大学教育改革に見られるように、教職課程においても、学生が修得すべき知識・技能を明確化し、「何を教えるか」よりも「何ができるようになるか」に重点を置くべきである。（下線は引用者による。）

よって、教職課程の科目である「教科教育法 国語」では、次の3つを目標とした。

- ・授業の「指導言」を意識し、一人3回は模擬授業をすること。
- ・学習指導案を一人で書くことができ、授業過程の組み立てができること。
- ・「国語科とは何か」という本質的な問題や教材の見方だけを、理論的に座学で学ぶだけでなく、模擬授業を通して、発問や板書、音読、範読、話し方、切磋琢磨のさせ方等、指導方法や技術を養い、国語科の本質に迫ること。

実践を重点においた指導を目標とすることにした。

以下アンケートを基に、学生が模擬授業をどう捉え、「国語科指導法」についてどう考えているかを示す。そして、アンケートを基に、来年度のシラバス改善および、授業改善につなげていく。

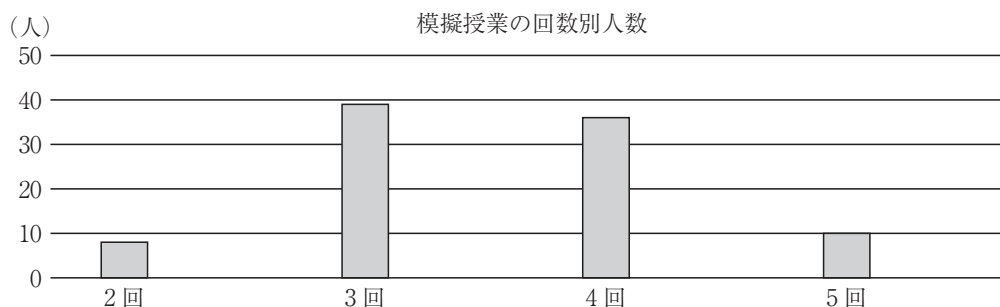
2 学生アンケート

2016年度、「教科教育法 国語」の授業の最終日に、アンケートを行った。7月21日に38名、

22日に54名、計93名に行った。

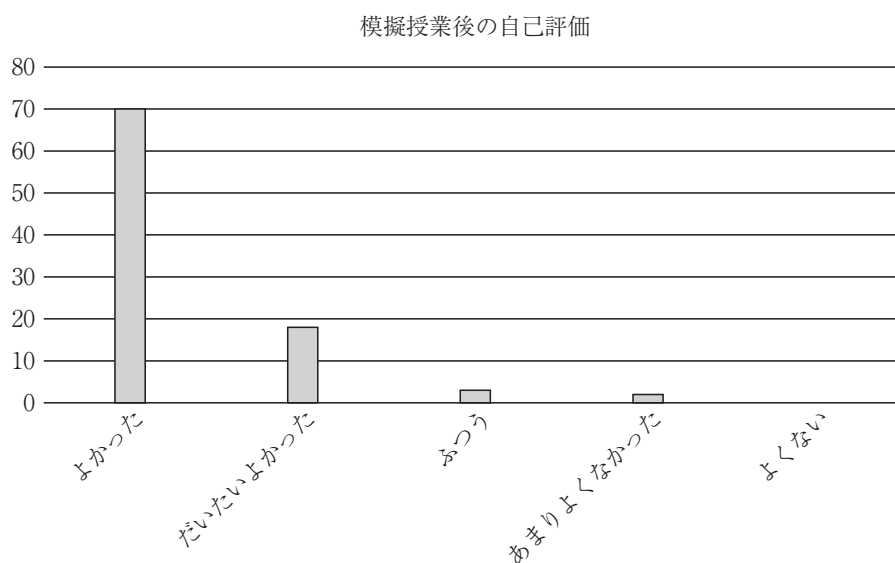
① 模擬授業の回数

次のグラフのとおりである。3領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）すべてに模擬授業を課したので、ほぼ全員が3回以上模擬授業を行っている。2～4回と回数に差異があるのは、実習等による欠席のためである。5回と答えた学生は領域ごとの代表として模擬授業を行った者である。模擬授業の詳細は後で示す。



② 模擬授業をしてよかったか。

よかった…70名 だいたいよかった…18名
ふつう…3名 あまりよくない…2名 よくない…0名



③ どんなところがよかったのか、あるいはよくなかったのか。

理由を自由記述にした。主なものを挙げる。

よかった

- ・授業体験は講義では養えない。友達の授業が参考（将来の種）になった。自分の欠点があった。
- ・たくさんの指導案を書く機会があった。

- すべての領域の指導案を書くことができてよかった。
- ・他の授業では、これだけ多くの指導案を書いたり模擬授業をしたりすることはない。実習前に本授業を受けてよかった。
 - ・他の授業ではグループ1つ作成し、1回しかできない。いろんな意見を取り入れるので良いが、国語のように、それぞれ指導案を各自書いて、模擬授業をたくさんできるのも、作成力や指導力アップにつながるのでよかった。
 - ・自分の考える指導案で自分の考える模擬授業を試すことができたから。
 - ・グループに分けて模擬授業をすることで、全員が授業をすることができた。また、良い点や改善点も話し合うことができた。自分の意見も言いやすかった。
 - ・初めての模擬授業のときはうまくいかなくて落ち込んだが、回数を重ねるごとに、自分の成長が授業をするたびに感じることができ、自信につながった。
 - ・一週間で略案を考え、模擬授業をするという繰り返しで、略案を考えるスピードが速くなり、模擬授業に慣れた。指導者としての言葉遣いや声掛けを意識する場があり、身に付きはじめた。
 - ・堂々とやること、話し方のレクチャーを受けたので、児童の反応を恐れるのではなく楽しもうと思えるようになった。
 - ・「板書するときは文字を黒板に埋め込むように書くこと」、「話すときは間を大事にして、全員に語ること」等、国語は勿論、国語以外でも大事にしたいテクニックを教わったこと。

あまりよくなかった

- ・一週間しか準備ができず、一人で授業を考えるため、他の人のアドバイスがもらえず、よりよい模擬授業をすることができなかった。
- ・先生に見てもらわなければならないので、改善点が見つけられず、同じことの繰り返しになる。

3 模擬授業の方法

1コマの授業は90分である。参加者全員が各領域の模擬授業をするために、時間配分が大切になる。次のようにした。

- ① 1人が模擬授業を15分程度行う。他の3～4人は児童役をする。
- ② 学習指導案をグループのメンバーに配布し、模擬授業についての反省と協議を5分程度行う。

4～5人グループ全員が①②を繰り返す。

この間、教員は各グループを回り、「指導言」や「コミュニケーション」を聞き、児童側に立った授業になっているか観察し、助言していく。

指導の間に、全員の前で模擬授業をする学生を選ぶ観点は、次のとおりである。

- ・ 講義型でなく、発問が意識され、考えさせる授業であること。
- ・ 目標を到達する授業になっていること。
- ・ 「指導言」や授業技術が意識されていること。
- ・ 声がよくとおり、明るく小学生向けの授業になっていること

③全体での模擬授業を一人が15分程度行う。

- ◆ 4～5人のグループに分かれ、模造紙を各自1枚使って、板書し授業を進める。一人が教師役、後の学生は児童役をする。

4 考察

アンケート「授業後の自己評価」のとおり、大部分の学生がよかったと答えている。

確かに、15分程度の模擬授業で力がついた、自信になったと言えるのかという考えもある。しかし、授業力は講義だけではつかない。模擬授業をすることで、授業を少しでも実感することができると思う。実習先で戸惑って何もできない、或いは、休んでしまう学生を見ることがある。一人一人が学習指導案を作り、授業をする立場に立たせることで、これらを防ぐ一助になるのではないかと考えている。

以下に示すとおり、模擬授業を終えた学生は、身に付けた力とこれから付けなければならない力を、授業を想定して考えているように思う。模擬授業を全員が体験することは、「授業を見る立場」から「授業をする立場」に学生を変えていくとも言える。

①模擬授業を通して、小学校の国語の授業をする上で、身に付けたと思う力は何ですか。

- | | |
|-----------------------|---------------|
| ・ 板書の仕方 | ・ 書写力 |
| ・ 正しい筆順で文字を書くこと | ・ 声の大きさ、スピーチ力 |
| ・ 授業をすることの面白さ | ・ 国語科指導案の書き方 |
| ・ 授業の展開と児童に着目させるところ | ・ 言葉遣い |
| ・ 洞察力…児童がどこでつまずくか見通す力 | |
| ・ 子どもの意見を短く板書する力 | ・ 教材研究の仕方 |
| ・ 子どもの褒め方 | ・ 机間指導 |
| ・ 「指導語」 | ・ 発問の作り方 |

- ・教師として子どもの前に立つ度胸
- ・人間性
- ・的確な指示（自信なさそうにしない）
- ・話し方（語尾、声の大きさ）
- ・物語文で、主人公の気持ちを考えさせることが目標のような授業をしないこと
- ・文字を丁寧に書こうとする姿勢

②模擬授業を通して、これから身に付けなければならない力は何ですか。

- ・国語に関する知識
- ・発問と発問のつながりを考える力
- ・授業力
- ・中心発問を考えるセンス
- ・言葉遣い
- ・自分の考えを的確に文章に表現する力
- ・予想外の答えが出て授業の流れが
変わっても、上手に軌道を正す臨機応変
な対応力
- ・読解力
- ・見通しを持った授業展開
- ・知的好奇心を子どもに持たせる指導力
- ・スピーディーな板書力
- ・教材の中で何が大切なのかを見出す力
- ・美しい日本語
- ・話し方 「～します」「～なさい」
という指示

5 おわりに ～自分の目で教材を見つめ、授業を創る教師に～

本授業の受講生の一人が、教育実習中に次のように書いてきた。

先生の「教科教育法 国語」で毎週指導案を書く機会を作っていただいたことで、指導案を書くことが苦ではなくなっている自分に気付きました。また、担当の先生から、短期間である程度のもので作るよう指示されても、あたふたせずに対応できるようになっています。本当にありがとうございます。あと少しですが、頑張ります。

教材を自分の力で読み取り、授業を自分で構築し、よりよい授業を追究していく力を育てていきたいと考えて、学生が模擬授業を大事に考える15時間の授業計画をした。アンケートを通して、シラバスの改善点が見える。

来年度は、模擬授業を15時間の後半に集中させるのではなく、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の3領域をバランスよく散りばめ、指導案の検討や全体授業にも時間をかける。そして、全員が模擬授業をする形態は継続する。模擬授業が後半に集中すると、学生の負担が大きいと考えたからだ。

学生アンケートを基に、次のように来年度のシラバスを改善した。

本年度の授業計画	来年度の授業計画
1 小学校国語科のめざすもの（目標）と国語教師の心得	1 小学校国語科のめざすもの（目標）指導すべき事柄（内容）
2 小学校国語科で指導すべき事柄（内容）	2 教材研究と学習指導案（発問、板書）
3 「話すこと・聞くこと」の教材分析	3 「読むこと」の教材と学習指導案検討
4 「読むこと」の教材分析	4 「読むこと」の模擬授業（全員）
5 「書くこと」の教材分析	5 「読むこと」の模擬授業（代表）
6 学習指導案の作り方	6 教材研究と学習指導案（ノート指導）
7 学習指導案①の提出と討議 「話すこと・聞くこと」	7 「書くこと」の教材と学習指導案検討
8 学習指導案②の提出と討議 「読むこと」	8 「書くこと」の模擬授業（全員）
9 学習指導案③の提出と討議 「書くこと」	9 「書くこと」の模擬授業（代表）
10 書写の指導	10 「教材研究と学習指導案（指示、説明）」
11 模擬授業① 「話すこと・聞くこと」と指導法	11 「話すこと・聞くこと」の教材と学習指導案検討
12 模擬授業② 低学年「読むこと」と指導法	12 「話すこと・聞くこと」の模擬授業（全員）
13 模擬授業③ 高学年「読むこと」と指導法	13 「話すこと・聞くこと」の模擬授業（代表）
14 模擬授業④ 「書くこと」と指導法	14 書写指導
15 「人格の完成に寄与する」国語科指導法のまとめ	15 国語科教育法のまとめ

中央教育審議会答申（平成27年12月21日）の「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の中で「教員養成に関する改革の具体的な方向性⁴⁾」で次のように示している。

教職課程については、学校種ごとの特性を踏まえつつ、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」等の科目区分を撤廃し、新たな教育課題等に対応できるように見直す。

今後も継続的に学生アンケートを実施しつつ、本学の「国語」と「教科教育法 国語」を新しい教育課程に対応できるよう精選・重点化に取り組んでいく。

【引用文献】

- 1) 文部科学省 『学校基本調査（2016） 都道府県別学級数別学校数』
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001079861&cycode=0>
- 2) 中央教育審議会
『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』（答申） p18
平成24年 8月28日
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094_1.pdf
- 3) 中央教育審議会
『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』（答申） p15
平成24年 8月28日
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094_1.pdf
- 4) 中央教育審議会
『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について
～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて』（答申） p31
平成27年12月21日
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf